

市民クラブ市政報告

発行：姫路市議会市民クラブ 姫路市安田四丁目1番地 ☎：079-221-2042 編集責任者：常盤 真功



お世話になります。
皆様にご支援・ご支持頂き活動を進めております、『姫路市議会 市民クラブ』の仲間です。

今回は、『令和4年度決算概要』『事業見直し』、そして9/1～10/2までの32日間で開会された『令和5年第3回姫路市議会定例会での個人質疑』についてご報告致します。

I. 『令和4年度決算概要』について

会計名	歳入決算額	歳出決算額	実質収支
一般会計	2,394億4,812万6千円	2,301億6,415万円	57億7,025万2千円 ※1
特別会計(7会計)	1,208億1,839万7千円	1,174億9,554万円3千円	33億2,285万4千円 ※2
企業会計(収益的収支)	(収入)	(支出)	(当期純利益)
水道事業	116億725万7千円	98億76万6千円	18億649万1千円
都市開発整備事業	8,151万円	5,026万8千円	3,124万2千円
下水道事業	182億4,266万6千円	182億4,266万6千円	0円

【一般会計】

一般会計の歳入2,394億4,812万6千円、歳出2,301億6,415万円で、形式収支は92億8,397万6千円、ここから翌年度への繰越財源35億1,372万4千円を差し引いた実質収支(※1)は57億7,025万2千円となり、昭和43年度以来55年連続の黒字を確保

【特別会計】

7会計合計で、歳入1,208億1,839万7千円、歳出1,174億9,554万3千円で、形式収支は33億2,285万4千円、ここから翌年度への繰越財源500万円を差し引いた実質収支(※2)は33億1,785万4千円の黒字。会計別では、全ての会計で赤字決算はなし

【企業会計】

水道事業会計、都市開発整備事業会計が黒字、下水道事業会計は収支均衡

II. 『事業見直し』について

少子高齢化や人口減少の進行等により、今後厳しい財政状況が見込まれる中、事業の在り方を時代に即して見直すとともに、積極的な施策の展開と持続可能な財政運営の両立を図るため、事業見直しに取り組む。

今年度に廃止や縮小、改善など見直し方針を決定しようとする37事業と、来年度以降の見直しに向け、継続して検討する27事業に分け、12月議会で方針説明し、2月議会でその方針を反映した予算案が提出される。

Ⅲ.『令和5年第3回姫路市議会定例会での個人質疑』について

駒田かすみ議員が質問しました

【個人質問：質問日 9/11】

第3回定例会では4項目について個人質問を行いました。
『決算について』、『公共施設の現状について』、『姫ちやりのシステム更新について』の3件についてご報告します。

●令和4年度決算について

Q: 昭和43年以降実質収支で黒字は継続しているが、合併以来、実質収支の黒字額の推移を見ると財政的に厳しい中で、今後の大型事業の財源はどうするのか。また事業見直しの際に事業シミュレーションや市民へのアンケート等市民の意見を確認できる手段は。

A: 使用料・手数料について受益者負担の適正化を図るべく統一的な基準に基づいた見直しや、財源確保策としてガバメントクラウドファンディングも活用する。事業見直しは社会経済状況や市民ニーズの変化に照らして再検証し、市民への説明等も含め、第4回定例会で改めてスケジュール等を含めた方針等を説明予定である。

Q: 包括外部監査で指摘のあった旧町や所管課変更時の公有財産の管理事務の状況と、香寺民俗資料館の扱いは。

A: 公有財産管理については現地確認やマニュアル等で対応すると共に、香寺民俗資料館については引き続き調査を継続すると共に契約締結時には公益上必要があれば減免等も検討する。

●公共施設の現状について

Q: 建設局以外が所管する農村公園のウォーターガン式のトイレ改修や、里山林の管理方法等は。

A: 農村公園のトイレについては衛生環境の改善方策について検討し、里山林の管理工事の実施状況はホームページ等を活用し周知に努める。

●姫ちやりのシステム更新について

Q: スマートロック型へのシステム更新後の料金体系と利用方法についての周知方法は。

A: ドコモ・バイクシェアのアプリを通して、1回利用30分165円、1日パス1,430円でその日の23時59分まで、月額利用は2,200円で1回30分以内なら追加料金なしで利用可能。クレジットカードが無い場合には1回利用はd払い、1日パスはコンビニエンスストアなどを通じて料金支払いを行うことで利用可能。

Q: シェアサイクルはポート数や設置地域が増える程、利便性が向上し、更に利便性が向上するという好循環に繋がるが、今後のポートの増設予定やエリアの拡大予定、民間企業との連携は。

A: 現時点では20ポート150台だが、利用者のニーズを把握しながら効果的にポート数を拡大して将来的に50ポート300台を目標とする。民間企業等への設置については、事業者のノウハウを活用してコンビニエンスストア等の敷地へも設置していく予定としている。

財政健全化や公演管理、姫ちやりについて 生活者・利用者の目線から質す！



山口悟議員が質問しました

【個人質問：質問日 9/12】

第3回定例会では5項目について個人質問を行いました。
『学校のプール授業の在り方について』、『世界遺産姫路城マラソンについて』、『肢体不自由のある児童生徒への支援について』の3件についてご報告します。

●学校のプール授業の在り方について

Q: プールの供用利用を開始した城乾小学校・城乾中学校の実証実験結果はどうだったのか。

A: 今年度は、城乾小学校の児童が試験的に城乾中学校のプールを各学年2回利用した。注水量で水深調整を行ったり、調整台を設置するなど、安全面にも配慮した。今後、類似する小中学校についても、共用利用の水平展開を図っていききたい。

Q: 屋内プールを活用した民間委託については、検討しているのか。

A: プールの維持管理費の削減・気象状況に左右されない計画的な授業の実施・教員の負担軽減等、民間に委託した場合のメリットを十分に考慮し、来年度にモデル事業を実施していく。今後、学校規模等による費用対効果や民間施設の入入れ可能な状況などを検討しながら、複数校でモデル事業を行い、可能な限り、早期に展開していきたい。

●世界遺産姫路城マラソンについて

Q: 2024年大会は「姫路城世界遺産登録30周年記念事業大会」として行われるが、今までと何が違うのか。

A: 記念事業大会の取組として、5名のインフルエンサーの方々にご参加いただき、ランナーと触れ合いながら、一緒にゴールを目指してもらおう。さらに、各インフルエンサーには姫路城マラソンを通じて姫路城の世界遺産登録30周年のPRや姫路の魅力をSNSで発信していただく。

Q: 姫路城マラソンの経済波及効果については、約11億4000万円程度になると試算されているが、もっと稼げる持続可能なマラソン大会にしておく必要がある。ランナーも観光客も魅力を感じる持続可能なマラソン大会に向けての仕掛けはどのように考えているのか。

A: 姫路城マラソンに参加し、姫路の観光資源や魅力を知っていただき、姫路に来たいと思っていただくことが重要。今後もし姫路城マラソンでしか体験できないような企画を検討し、持続可能なマラソン大会として確立できるように努めていく。

●肢体不自由のある児童生徒への支援について

Q: ルネス花北から月1~2回、理学療法士が書写養護学校に来校し、児童生徒・教員に指導や助言を行っているが、専任配置が必要ではないのか。

A: 今年度から、理学療法士の滞在時間を延長し、充実した支援につなげている。

Q: 理学療法士は、地域の学校には来校していない。地域の学校に通う肢体不自由児にも指導や助言は必要ではないか。

A: 地域の学校園には、理学療法士から助言を受けている書写養護学校の教員を派遣している。

学校のプール授業の在り方等について 未来を担う子供たちのために質す！

